# ぐまちか

## 我がまちを語る

**沢山　隆さん**

厚原南(64歳)

### 旺盛な開拓者精神

厚原は昔、熱原と書き、熱い原つまり水がなく、人の住むようなところではないと言われたようです。特に北部は天神山と呼ばれ終戦前後は家が五軒しかありませんでした。水がなく、天水に頼りオーバーに言えば陸の孤島のようなところでした。その後、開拓者精神旺盛な人々の力で少しずつ開け、今は四百戸以上の家が建っています。昔を知っている人間からすれば、これは驚くべきことです。

また、一二七九年に、日蓮宗の弾圧として有名な熱原神四郎の事件がありました。これは、丘地区の反骨心を、今に伝えるものといってもよいでしょう。

丘地区も将来区画整理が行われると聞いています。これまで培われた開拓者精神と反骨心で、すばらしいまちづくりが行われると思います。

## クローズアップ人

**新市20周年記念作文・中学生の部で市長賞を受賞**

### 石原圭一郎さん

吉原第三中学校　三年

夏休みの宿題として出された作文の課題の一つが新市二十周年。普通に考えるとややとつつきにくい題材に、こともなく挑戦し、見事市長賞を受賞しました。

石原君の作文は、何と言っても、その観点に特徴があります。「富士市の二十周年は頭の隅にいつもあった」と言うように、ふだんから社会のことに関心を持っています。

そして、例えば自然の大切さをあらわすのに、赤渕川でサンショウウオを見た経験を述べるなど、生物や歴史など広い範囲の知識をもとにしています。

ですからこれまで、緑化作文や市民憲章普及推進作文などでも入賞してきました。

三年間担任してきた石川先生は「まじめで、派手さはないが地道な行動力のある生徒。」と評する。「ファミコンは苦手。外で遊べるようなレクリエーション施設や博物館を充実してほしい。」と語り、新人類とは一味違う少年です。

## あの人・この人・こんなこと

ぴよぴよ学級で勉強
渡辺　恵さん(厚原北)

ことしの二月、一度に二人(左、佳介君・右、亮平君)のママとなった渡辺恵さん(二十四歳)。ご主人に協力をしてもらっても、育児になかなか忙しい毎日です。

四月から丘公民館の「ぴよぴよ学級」に入り、赤ちゃん体操・離乳食など勉強しました。「健康で、友達のいっぱいできる子になってほしい」と、思わずほっぺにチュ。

山の神さんを掃除
石川いとさん(厚原東二)

石川いとさん(七十九歳)は、何十年もの間、地元の山の神さんの掃除をこつこつと続けてきました。

「私は野良仕事が性にあっていますから、草取りは健康法の一つです。これまで医者にかかったこともなく、元気に働けるので御利益もあるのでしょうね。」と日焼けした顔でニッコリ。

バスの中でふれあいの輪
厚原南区七班の皆さん

「芋の煮っころがし」「八宝菜」など、各家庭の料理を持ち寄って一ヵ月に一回は懇親会を開くという厚原南区七班の皆さん。

しかも、会場は中古のバスの中というユニークなもの。窓がたくさんあるので、月見も花見もオッケー。酔ってくればさながらバス旅行の雰囲気も出ます。連帯感ではどこにも負けない皆さんです。